

## 古屋山大道マツ(遺伝資源)希少個体群保護林



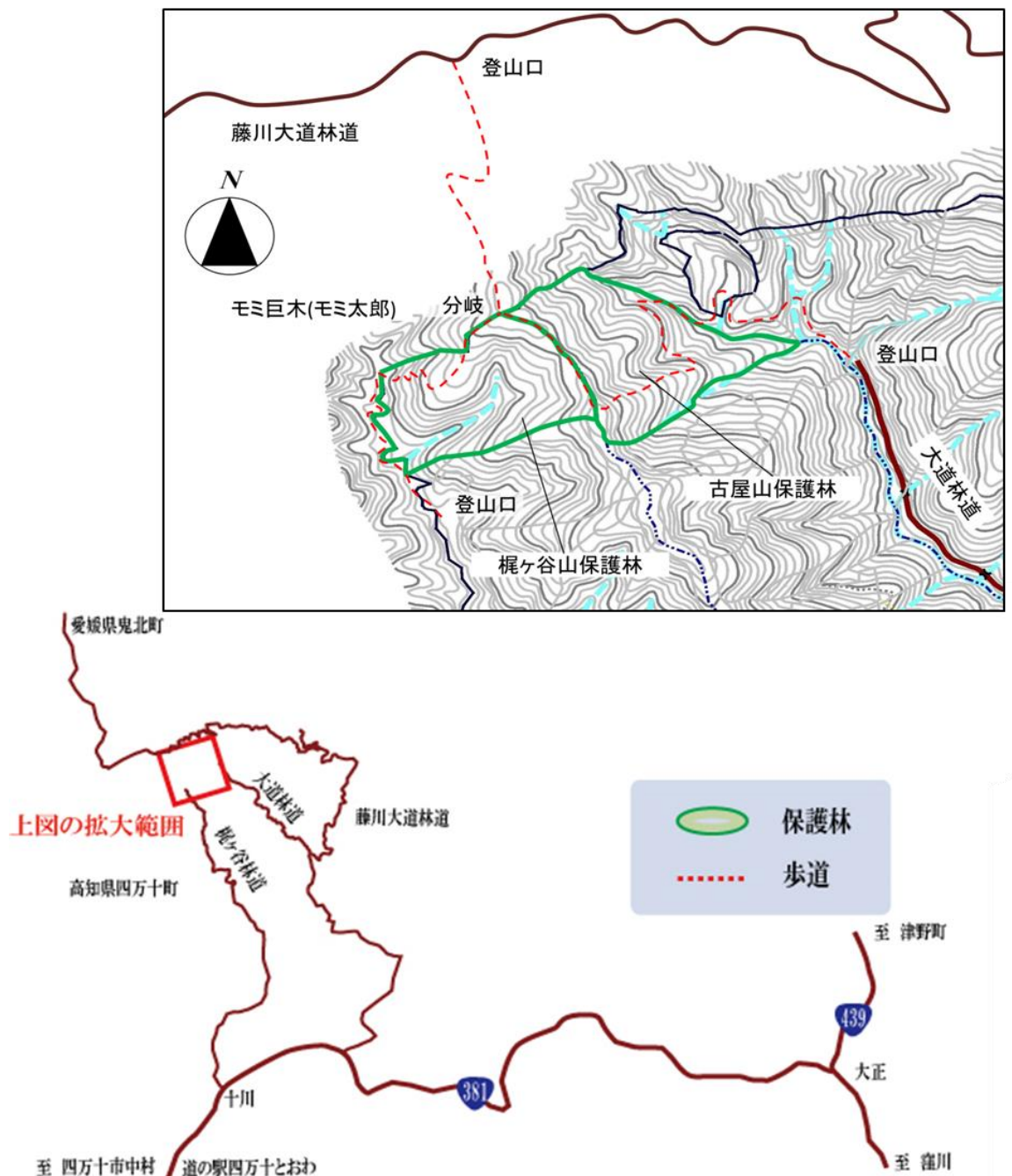
この地域のアカマツは古くから「大道マツ」として知られており、形質が優れ、特に、枝下高が高く、樹幹、木理ともに通直であるのが特徴です。

残念ながら近年マツ枯れが深刻になり、大道マツの再生事業を行っています。

【保護林マップ】

梶ヶ谷山モミ (遺伝資源) 希少個体群保護林  
古屋山大道マツ (遺伝資源) 希少個体群保護林

マップ



## イラストマップ



【上空から見た保護林】



マツ枯れが目立ち現在残っているマツは100本程度となっています。  
(2012年3月27日撮影)

### 【アカマツの特徴】

アカマツは尾根筋の乾燥した箇所に良く生える木で樹皮が赤褐色のため、遠くからでも良く分かります。

松ヤニが多く燃えやすいため、昔は薪として良く使われました。また、アカマツ林はマツタケが採れることでも有名です。



大道マツの樹形（足谷山国有林にて撮影）

枝の位置が高く、幹がまっすぐに伸びるのが特徴。



#### アカマツの幹

樹皮は赤褐色で鱗状にはがれる。



#### アカマツの葉

葉は針状で長さ 7～12cm、やや細く触れてもあまり痛くない。



#### アカマツの若い球果

長さ 4～5cm で熟すと褐色になる。